

アカマツ乾燥技術の現地定着の取組み

久慈地域のアカマツ平角材の乾燥技術を向上させるため、岩手県林業技術センターの研究成果を現地へ定着させる取組みが行われておりますので報告します。

1 背景

これまで、久慈地域のアカマツ平角材は、地域工務店の需要、大手ハウスメーカーの中間製品が大半を占めていたため、瑕疵の観点において、製材品の乾燥の重要性は低い状況にあり、天然乾燥が主体となっておりました。

近年、アカマツ材の販売促進に取組み、品質管理された乾燥材供給の重要性が高まっておりますが、地域工場では、天然乾燥材の含水率が把握されていないため、受注時にお客様に対し、製品の品質に関する十分な説明ができない状況にあります。

また、仕様に含水率指定があった場合、天然乾燥材に人工乾燥を施し、含水率を調整する必要がありますが、既存の人工乾燥スケジュールを用いるとねじれ、割れが発生し、クレームを引き起こすことが課題となっております。

このため、本取組みでは、岩手県林業技術センターの乾燥技術に関する研究成果を用い、技術の現地定着を図ることにより、これらの課題を解決することを目的としております。

2 取組み概要

（1）天然乾燥アカマツ材の含水率推移の把握

天然乾燥期間が0～3年間の平角材を各20体（合計120体）調製し、重量変化を経時的

に測定することにより、天然乾燥期間と含水率の関係を明らかにするものです。

（2）天然乾燥材の仕上げ乾燥技術の定着

岩手県林業技術センターで推奨されるいくつかの人工乾燥スケジュールを用い、天然乾燥材の仕上げ乾燥を行い、寸法変化を指標として適正な人工乾燥スケジュールの選抜を行うものです。

本取組み結果については、年度末に地域関係者へ情報提供する予定です。



写真1 天然乾燥の状況



写真2 平角材測定の様子（乾燥期間にもよるが、4mの平角材1本あたりの重量は70～150kg）